

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷二十第

行發日一月四年十正大

論叢

勞働資本協調方法としての利潤配分……………法學博士 田島 錦治

需要曲線供給曲線及び價格曲線……………法學博士 河上 肇

地方所得稅に於ける特別稅對附加稅……………法學博士 神戸 正雄

獨逸直接稅の變革……………法學博士 小川 郷太郎

植民地の財政政策……………法學博士 山本 美越乃

時論

農業銀行國營の必要……………法學博士 河田 嗣郎

說苑

各國貿易概觀……………法學士 小島 昌太郎

雜錄

Sunderlandの日本文明評……………法學博士 財部 靜治

明代の救濟制度……………文學士 清水 泰次

需要曲線、供給曲線、及び價格曲線（二）

（附り、石川法學士の『正常需要供給の動的考察』に對する所見）

河 上 肇

- 目次
- 一、普通に謂ふ所の需要曲線及び供給曲線 本號掲載
 - 二、マアシヤル等の所謂供給曲線と價格曲線 本號掲載
 - 三、石川法學士の所謂需要曲線及び供給曲線 次號掲載

需要曲線及び供給曲線なるものは、今日價格論の圖解のため、廣く用ひられてゐる所である。しかるに私の見る所によれば、この二個の曲線の中、供給曲線と稱せられつゝある者の方には、二種の區別がある。もつと正確に言へば、供給曲線と名けてゐるものが學者により相違してゐるのであつて、即ち或る學者の名けて供給曲線と謂へるものと、他の學者の名けて同じく供給曲線と謂へるものとは、互に其の種類を異にしてゐる。そこで供給曲線なるものに、第一の意味のものと第二の意味のものが出来る譯であるが、私の考へる所によれば、その中第二の意味に屬するものは、實は供給曲線でなくて價格曲線なのである。私はさう考へるから、そこで私の立場から言へば、需要曲線と供給曲線と價格曲線と、此の三者の間に於ける區別を明かにする必要があ

る。しかるに此等の曲線は、動もすれば互に混同せらるゝ傾があつて、その結果、本來問題を明瞭にするが爲めの手段たるべき圖解が、往々にして混雜を惹き起し、却て理解を妨ぐる媒介となる場合があるやうである。本論文は乃ち此等三種の曲線の區別を明確にすることを目的とするもので、論餘、自分の考の一適用を示すが爲めに、最近石川法學士が本誌に公にされた『正常需要供給の動的考察』と題する論文中の曲線使用法の當否に言及せんとする積りである。所謂供給曲線に二種あることが、元と問題の起る原因であるから、議論はおのづから供給曲線の性質を闡明することを、其の中心とする。

一、普通に謂ふ所の需要曲線及び供給曲線

最も普通に供給曲線と稱せられつゝあるものは、市場價格の決定を説明すべき所謂需要供給の法則の圖解に當り、需要曲線と交叉する地位に置かるゝ曲線のこと、それは今更説明するまでもなく、一般周知の曲線であるが、後の議論に關係があるから、順序として、その大體を述べて置く。例へば、フィシャアの『經濟原論』¹⁾には、それに關して、次の如く説明してある。

『如何なる市場に於ても、砂糖の價格が異れば、それに應じて需要も亦異なる。吾々が一定の價格に於ける需要といふのは、人々が其の價格に於て購買せんと欲する砂糖の分量のことであ

1) Fisher, Elementary Principles of Economics, 1912, pp. 261-268.

る。同様に、一定の價格に於ける供給といふのは、人々が其の價格に於て販賣せんとする砂糖の分量のことである。砂糖の價格が一封度八仙であつた場合に、一定の時、一定の社會に於ける砂糖の需要は、假に、一週九百封度だとする。然る時、もし價格が下落して七仙となつたならば、需要は増加して例へば九百四十封度となるであらう。更に價格が六仙に下落すれば、需要は増加して例へば千封度となり、以下之に準ずる。

『砂糖の供給については、吾々は、之と反對の方向に變ずると考へなければならぬ。例へば八仙の時千百封度であれば、七仙の時は千五十封度、六仙の時は千封度といふが如くである。

次の表は此種の數字を示したもので、種々なる價格との關係に於ける需要及び供給の「表」(Schedule)を稱せらるゝものである。……………

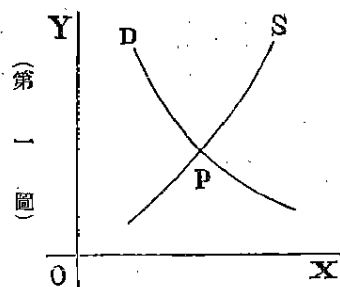
價格	需要の表	供給の表
・〇八	九〇〇	一一〇〇
・〇七	九四〇	一〇五〇
・〇六	一〇〇〇	一〇〇〇
・〇五	一一〇〇	九〇〇
・〇四	一二五〇	七五〇

『……………斯かる場合には、價格は六仙以上になることも以下になることも出來ぬので、窮極六仙に決定されなければならぬ。此の如く供給と需要とを同一ならしむる所の價格は、「市場を決

「濟す」と稱せられ、且つ市場價格と稱せられる。……なほ以上の關係は、一の圖表により、一層明瞭に看取し得らるゝ。』

茲にフィシヤアが一の圖表と謂ふ所のものは、市場價格決定の説明のため廣く用ひられつゝある所の、一の供給曲線と一の需要曲線との交叉を現はす圖表であつて、氏の掲ぐる所のものを、

簡單に書き改むれば、それは次の如きものである。



(第一圖)

此の第一圖に於て、OY線の又は之に平行する線の長さは、物の價格の高さを現はし、OX線の又は之に平行する線の長さは、一定の價格に於て需要され又は供給さるゝ所の、其の物の分量の大きさを現はし、又D線とS線との交叉點なるPは、所謂價格決定點にして、そのP點がOX線を距る高さは、所定の需要及び供給の下に於ける市場價格の高さを現はすものなること等は、今更説明を要せざることである。

さてフィシヤアの謂ふ所の需要曲線及び供給曲線なるものは、此の如き性質のものであるが、同時に其れは、多くの學者によつて、同じやうに需要曲線又は供給曲線と稱せられてゐるものである。例へばイリー²⁾も、タウシグ³⁾も、ウィクステッド⁴⁾も、皆斯かる用例に従つて居り、余も亦た嘗て舊著⁵⁾に於て、其の用例を襲踏したものである。(但しマアシャル、チャブマン等は、之が例外

2) *Ibid.*, pp. 264, 265, 266. (Fig. 18-20.)

3) Ely, *Outlines of Economics*, 1917, pp. 158, 163.

4) Taussig, *Principles of Economics*, 1912, vol. I, p. 146.

5) Wicksteed, *Common Sense of Political Economy*, 1910, p. 505, et seq.

6) 『經濟原論』 20-22頁

に屬する。その事は猶は後に至つて述ぶるであらう。

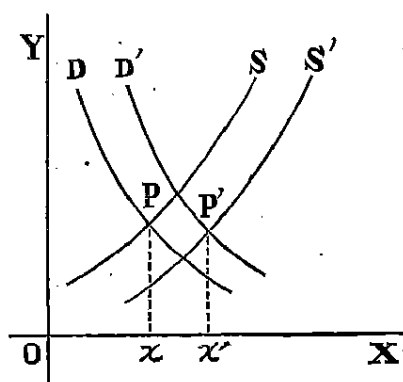
普通謂ふ所の需要曲線及び供給曲線なるものは、大體此の如きものであるが、余は更に、此等曲線の特徴と看做すべき諸點を、指摘して見たいと思ふ。

第一、曲線の内容に關する特徴。此等の曲線は、既に述べし所によつて明かなる如く、特定の時點に、特定の市場に於て (in a particular moment at a particular market) 存在する所の、可能的需要及び可能的供給 (potential demand and potential supply) の事情を現はしてゐるのである。

それを分析して言へば、此等の曲線は、(イ) 特定の時點に於ける事情を現はしたものであり、(ロ) 又可能的需要及び可能的供給に關する事情を現はしたものである。

(イ) 先づ其れが特定の時點に於ける事情を現はしたものだ、と云ふことから、説明を始めるならば、例へば、砂糖の價格が八仙ならば一〇〇封度の供給があり、七仙ならば一〇五〇封度の供給があり、六仙ならば一〇〇〇封度の供給があるなど云ふのは、別々の時に於ける供給の状態を言ひ表はしたものでなくて、總て同じ時に於ける供給の状態を言ひ表はしたものである。時は同じ時だけれども、只價格が高ければ割合に多くの供給があり得るし、價格が低ければ割合に僅かの供給しか無い、といふやうに、價格の相違に従つて供給量の多少に相違があり得る、とい

ふ事實を、言ひ表はしてゐるのである。簡単に言へば、それは a synopsis of co-existing possibilities (同時存在の可能性の一覽表)である。だから、一個の需要曲線と一個の供給曲線とが在るに止まる圖表に於ては、そこに「時」の経過が含まれてゐない。もし其れに時の要素を入れ、時の経過に伴ふ需要又は供給の變化を現さうとすれば、その時點の數に應じて需要又は供給の曲線の數を増して行かねばならぬ。即ち供給が變化し、これにつれて需要も亦た變化した場合に、此等の變化起らざりし以前の狀態と、その既に起りたる以後の狀態とを、同時に同じ圖表に現はさんとする

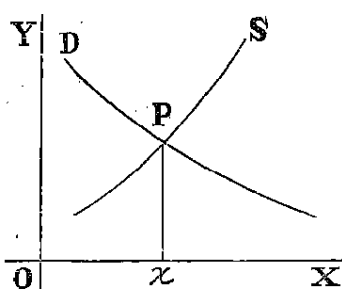


(第二圖)

曲線とが書き加へらるゝのであつて、即ち一個の供給曲線又は一個の需要曲線には、時の経過が

全然包含されてゐないのである。

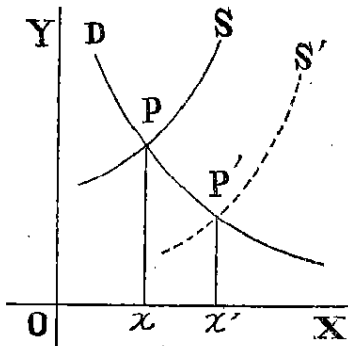
(ロ) 既に述べし如く、此等の曲線は、同時存在の可能的事實の圖示である。だから其等の曲線によつて現はされてゐる需要又は供給は、おのづから可能的需要又は可能的供給でなければならぬのである。此事は委しく説明する必要の無さうな、甚だ解り易い事實のやうだけれども、實際に於ては、需要又は供給の増減を論ずるに際し、可能的需要又は可能的供給の増減が屢々現實的需要又は現實的供給の増減と混同せらるゝことあるが故に、冗長を厭はず、一應その大體を説明して置かうと思ふ。茲に可能的需要又は可能的供給 (potential demand, potential supply)と謂ふは特定の時點に於て、種々なる價格の下に、その一々の價格に對應して生じ得る所の、種々なる



(第三圖)

分量の需要額又は供給額の系列であつて、それを圖に現す時、即ち一個の需要曲線又は一個の供給曲線となるのである。しかるに價格なるものは、此の需要側の事情と供給側の事情との關係よりして、恰も需要額と供給額とが一致し得る點に定まるのであつて、さうして其の決定されたる一個の價格の下に於て現に取引さるゝ所の需要額又は供給額は、所謂現實的需要又は現實的供給 (actual demand, actual supply) なるものである。例へば第三圖に於て、D線及びS線は、可能的需要

及び可能的供給を現はし、P 點は、斯かる需要側の事情と供給側の事情よりして、恰も需要額と供給額とが一致し得る所の、價格決定點を現はす。さうして O 點の長さは、斯かる價格の下に於て現に取引さるゝ所の需要額及び供給額、即ち現實的需要及び現實的供給を現はす。一定の點に於ける可能的需要及び可能的供給が別々の曲線を以て現さるゝに反し、一定の價格の下に於ける現實的需要及び現實的供給が同時に一個の直線を以て現さるゝ所以は、元來賣買なるものは双方的行爲にして、買はれたる分量は必ず賣られたる分量に等しく、從て一定の價格の下に於て現に需要されたる物の分量は、同時に其の價格の下に於て現に供給されたる其の物の分量と、全然同一ならざるべからざるの理に本づく。可能的需要及び可能的供給は、現實的需要及び現實的



(第四圖)

供給と、此の如き差異を有する。さうして普通に需要又は供給の増減と謂ふのは、即ち前者の増減を指すので、之を圖に就て言へば D 線又は S 線が其の地位を變動する場合を指すのであるが、それが動もすれば、後者の増減と混同せられるのである。例へば第四圖に於て、S といふ供給曲線が S' といふ供給曲線に變すれば、それは供給側の事情に變動あることを示すもので、即ち此の場合には供給が増加したのである。さうして S 線が S' 線となつた結果、

價格決定點はP點よりP'點に下がるので、即ち供給増加の結果、價格は下落して、元とP'となりしものが今はP'となるのである。しかるにPがP'となつた結果は、更にO'を變じてO'となすに至るので、言ひ換ふれば、價格下落の結果、現に供給せらるゝ額が、從て又、現に需要せらるゝ額が、同時に増加するのである。その意味に於て、それは需要の増加である。かくて次の如き一系列の事實が繼起する譯になる。——第一、供給の増加——第二、價格の下落——第三、需要の増加。そこで輕卒に之を見ると、供給の増加は即ち需要の増加といふ事になるのだが、學者の議論に於ても往々此の二つの者が混同されて、その言ふ所が意味を成さぬやうな場合もある。しかしながら「第一、供給の増加——第二、價格の下落——第三、需要の増加」といふ事實の系統に於て、第一に供給の増加といふは、可能的供給の増加のことで、即ち前の圖に就て言へば、供給曲線のS線がS'線となつたことであり、第三に需要の増加といふは、現實的需要の増加のことで、同じく前の圖について言へば、只O'がO'となつただけで、需要曲線たるD線そのものには、何等の變化が起つてゐないのである。だから簡單に需要の増加とは言ふものゝ、實は需要側の事情には何等の變動なく、即ち需要は毫も増加してゐるのでなくて、只需要額が増加してゐるばかりなのである。之を要するに、需要又は供給の變動と謂ふは、可能的需要又は可能的供給の變動のことで、之を圖に現せば、需要曲線又は供給曲線が其の位置を變更する場合のこと

である。さうして斯かる意味の需要又は供給の變動は、互に獨立して起り得る、即ち之を圖に現せば、需要曲線のみが動くこともあり得れば、供給曲線のみが動くこともあり得る。しかるに需要又は供給といふ言葉を、現實的需要又は現實的供給といふ意味に解すれば、其の變動は必ず同時に起り、需要の増減のみあつて、同時に供給の増減がないといふことは、到底在り得ない。即ち之を前の圖について言へば、 Ox 線によりて現實の需要額と現實の供給額とが同時に現されてゐるのだから、もし Ox 線が Oy 線に延びたならば、それは需要額が殖えたと同時に供給額が殖えたことを意味する。需要曲線及び供給曲線が、可能的需要及び可能的供給を現す、といふ意味は、これで誤解の起り得ない程度に、説明が出来たことと思ふ。仍て次には此等曲線の第二の特徴を説明したいと思ふ。

第二、曲線の外形に關する特徴。以上は需要曲線及び供給曲線の意味する所の内容の特徴であるが、斯かる内容はおのづから其の外形を制約して、之に一定の特徴を賦與する。即ち以上述べたるが如き意味の需要曲線は、概して左より右に下がる曲線の形をとり、之に反し、供給曲線は、概して右より左に下がる曲線の形をとるものであつて、如何に極端の場合を考へて見ても、少くとも、需要曲線が右より左に下がる曲線の形をとり、又供給曲線が左より右に下がる曲線の形をとることは、絶對に在り得ない。それは何故であるかといふに、需要曲線が右より左に下が

る曲線の形を取つてゐると云ふことは、同じ時、同じ市場に於て、物の價格が高ければ高いほど需要せらるゝ分量が多く、價格が安ければ安いほど需要せらるゝ分量が少い、と云ふことを言ひ表すのであるが、左様なことは、同じ時、同じ市場に於て、到底起り得べからざる現象だからである。それと同じやうに、供給曲線が左より右に下がる曲線の形を取つてゐると云ふことは、同じ時、同じ市場に於て、物の價格が高ければ高いほど供給せらるゝ分量が少く、價格が安ければ安いほど供給せらるゝ分量が多い、とふことを言ひ表はすのであるが、左様なことも亦、同じ時、同じ市場に於ては、到底起り得べからざる現象なのである。

二、マアシャル等の所謂供給曲線と價格曲線

普通に謂ふ所の需要曲線及び供給曲線なるものゝ意味及び特徴は、以上述ぶるが如くである。しかるに、同じく價格論に關して廣く用ひられつゝある曲線の中に、なほ之と性質を異にせる他の種類の曲線がある。それは、正常價格の決定を説明する場合に、貨物の生産費の變動を示すための曲線であるが、この生産費なるものは供給側の事情に屬すること故、その曲線も亦た簡單に、供給の事情を示す曲線と稱せらるゝ場合があり、殊に學者によりては、特に此の方の曲線を名けて『供給曲線』と謂へるものがあるが爲めに、此の曲線と、前に市場價格の決定に關して説明せし供

供給曲線とが、動もすれば混同せられて、無用の混雜を來すことがある。『曲線交叉の圖表は多くの違つた意味を以て用ひられてゐる、さうして其等のものを正確に辨別せざることは、甚しき混雜を惹起するの原となつてゐる』とウィクステイドの言つてゐるのが、即ちそれである。余は今説明の順序として、一應この第二の意味に於ける供給の曲線につき、その大體を述ぶるであらう。一定の時點に於ける市場價格を論ずる場合には、既に述べたる如く、物の需要と供給と、この二つの側に分ける事情を考慮する必要がある。しかるに、觀察の範圍を長き期間に跨らす時は、それにつれて、需要の側に於ける事情よりも、供給の側に於ける事情を、より多く考慮に入るゝ必要が起る。『吾々の考慮する期間の短ければ短きほど、需要が價值に及ぼす影響に對して、與へらるべき吾々の注意の割前は、より多くなければならぬし、又その期間が長ければ長きほど、生産費の價值に及ぼす影響は、より大となるであらう。――吾々は、一般の規則として、此の如く結論し得る』。言ひ換ふれば、一定の時點に於ける市場價格を論ずる場合には、生産費のことは全く問題に上らぬけれども、長期に亘る正常價格を論ずる場合には、物の生産費といふことが殆ど唯一の問題となる。だから『正常價格とは貨物の一單位の生産費用に丁度等しいだけの價格に與へられた名稱である』⁹⁾と言ひ得ることにもなる。

しかるに、貨物の一單位の生産費は、生産せらるべき貨物の單位數の大小に應じて、必ずしも

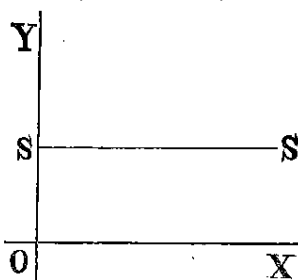
7) Wicksteed, *Ibid.*, p. 527

8) Marshall, *Ibid.*, p. 350.

9) Ely, *Ibid.*, p. 169.

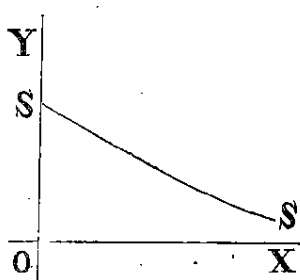
一樣でない。さうして其の變化については、模型的の場合が、普通三様に考へられてゐる。(其事の是非については、なほ考ふべき點もあると思ふが、問題外に屬するから、茲には省略して置く)。生産高を如何に増加するも、一單位の生産費は、不變の場合と、生産高の増加につれて、遞減

(圖 五 第)



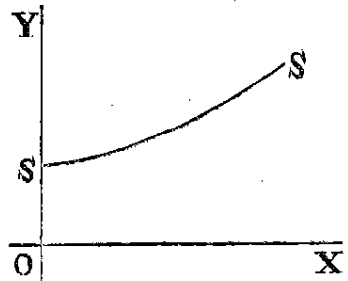
する場合と、之に反し遞増する場合とが、即ち其れである。(問題は生産額の増加の場合について考へられてゐるのが普通である。しかし生産額の減少の場合にも、同じやうな問題が考へられ得ることは勿論であつて、そのことについては、後に一言する機會がある)。さうして此の如き生産費の變化が、矢張り曲線又は直線を以て圖に表はされてゐるのであつて、例へば、第五圖のS線は生産費の不變を現はし、第六圖のS線は之が遞減を現はし、第七圖のS線は之が遞増を現はす、といふが如くである。

(圖 六 第)



さて此等の曲線(又は直線)は、貨物一單位の生産費を示すものであるから、先きに市場價格の決定を圖解する際に用ひた供給曲線とは、全く其の性質を異にするものであるけれども、第一に其の圖形の外觀が似て居り、第二に學者によつては此等の曲線をば特に『供

(圖 七 第)



給曲線』と名けて居り、第三に多くの學者は（私自身も嘗て之に倣つたことがある）、先きに私が市場價格の決定を圖解する際に用ひらるゝものとして説明して置いた需要曲線をば、此の別種の意味を有する供給曲線と同じ圖面に交叉せしむることにより、需要供給の平衡を云爲して、正常價格の決定點を説明して居るので、曲線の混同は益々容易くなつてくるのである。

の例として、吾々はマアシャル、¹¹⁾チャブマン等を挙げ得る。例へばチャブマンは『長期に於ける價格、即ち正常價格と稱せらるゝもの』の決定を説明せんがために、次の如き表を掲げてゐる。

帽子の數(一週毎)	限界的需要價格	限界的供給價格
九、六〇〇	五・八	五・四
九、七〇〇	五・七	五・三
九、八〇〇	五・四	五・二
九、九〇〇	五・二	五・一
一〇、〇〇〇	五・一	五・〇
一〇、一〇〇	四・二	四・一
一〇、二〇〇	四・八	四・一〇
一〇、三〇〇	四・七	四・九
一〇、四〇〇	四・五	四・八

論 叢 需要曲線、供給曲線、及び價格曲線(一)

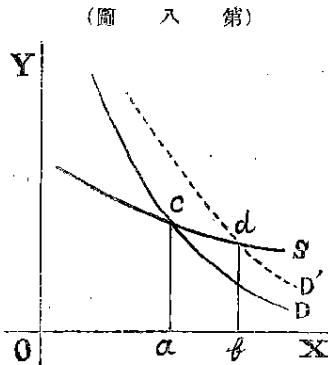
第十二卷 (第四號) 三九 五三七

10) 『經濟原論』101, 160頁等

11) Marshall, *ibid.*, p. 344 n., p. 346 n.—see also p. 96 n.

12) Chapman, *Outlines of Political Economy*, 1911, pp. 163-167.

此の表につき、彼は次の如き説明を加へてゐる。『第二段に書き入れてある價格は、效用遞減の法則の故に、下がつてゐる。第三段のそれは、或は上がり、或は下がり、或は同一價格を維持し、或は最初上るか下がるかして後に其の反對になることもある。それは、もし當該産業に報酬(return)の遞減が行はるゝならば上るであらうし、もし報酬の遞増が行はるゝならば下がるであらうし、もし報酬が不變ならば平均を維持するであらう。』



彼は更に前記の數字をば、次の如き圖表で現はしてゐる。この

第八圖に於て、D線は需要價格を現はすもので、彼は之を名けて需要曲線と謂つて居り、又S線は供給價格を現はすもので、彼は之を名けて供給曲線と謂つてゐる。さうして彼れの説明によれば此等二曲線の交叉によつて生じたるc點が、その場合の價格決定點であつて、即ちac線の長さは、先きの數字に當て嵌めれば四

平衡を保つ所の、需要及び供給の各々の分量たる一〇、一〇〇個を現はすものである。なほ一定の時期を経て、需要の増加が起り、従て需要曲線がD'線の形を取ることになれば、價格はcaより下落してdbだけのものになる、といふのである。(マアシャルの言ふ所も、略は之と同様で

ある¹³⁾

チャブマン、マアシャル等が謂ふ所の供給曲線なるものは、此の如き意味のものである。そこで等しく供給曲線と稱せられながら、全く其の性質を異にせる二様の曲線が在ることになった。

私は今便宜のために、先きに掲げたものを第一の意味の供給曲線と名け、後に掲げたるものを第二の意味の供給曲線と名け、以下此等二者の間に於ける性質上の差異を指摘するであらう。

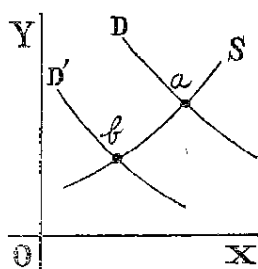
第一、曲線の内容の差異。先きに第一の意味の供給曲線につき其の内容上の特徴を説明せし所に照應して之を論ずれば、第一の意味の供給曲線と第二の意味の供給曲線とは、(イ)その現はす所の時の關係に於て相違し、(ロ)又その現はす所の供給が可能的供給なると現實的供給なるとに於て相違する。これは勿論互に關聯してゐる事柄だけれども、便宜のため、順序を立て、別々に述べて見やう。

(イ)既に述べたる如く、第一の意味の供給曲線は、特定の時に於ける可能的供給の事情を現はしたもので、言ひ換ふれば、それは供給に關する『同時存在の可能性の一覽表』であるから、そこに『時』の経過が含まれてゐない。従て其れに時の要素を入れ、時の経過に伴ふ供給の變化を現さうとすれば、その時點の數に應じて、曲線の數を増加しなければならない。しかるに第二の意味

の供給曲線は、之と全く其の性質を異にし、それは、長期間に於ける事情の變化を現はしたもので、『同時存在の事實の系列』(a series of co-existing facts)を現はしたもので無いから、それには必ず『時』の經過が含まれてゐる。だから時の經過に伴ふ供給側の事情の變化は、當然、一個の曲線の中に現されてゐる。それは、同時存在の可能的事實の圖示でなくて、異時存在(繼起的發生)の歴史的事實の圖示である。——(尤も其れは、必しも異時存在の歴史的事實の圖示と見なくとも、異時存在の可能的事實の圖示と考へられぬ事は無い。然る時は、假ひ供給曲線は依然として異時存在の事實の系列を現はして居り、從てその曲線には當然に時の要素が含まれてゐるにしても、それは歴史的事實を現はした者でなくて、一定の時點に於て推定された可能的事實を現した者になる。例へば、その曲線を以て、生産額少かりし時は貨物の生産費は云々の程度に高かりしが、今は生産額多くなりし爲め其の生産費は云々の程度に下がれり、といふ類の歴史的事實を現してゐる、と見ることも出来るが、又それと稍と違つて、生産額少ければ貨物の生産費は云々の程度に高まるべく、生産額多ければ其の生産費は云々の程度に下がるべし、といふ類の、一定時點に於て考へられた豫想的事實を現してゐる、とも考へられぬことは無いのである。どちらに考へても、甚しい違ひは起らぬから、煩雜を避けて、後の場合の考方は、姑く省略に附して置く。但し以下引續き述ぶる事項は、後の考方に従ふ時は、その適用を見ないと云ふことだけ、茲に明記して置

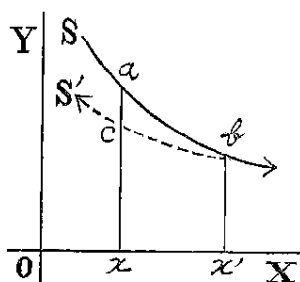
く。

既に述べたる如く、第二の意味の供給曲線は、同時的存在の可能的事實を圖示したものでなく、繼續的發生の歴史的事實を圖示したものであるが、今この事に關聯して、一個の重要な伴生的事實が生ずる。それは、價格決定點の位置たる、第一の意味の供給曲線上に於ては、右に前進することも、左に後退することも、共に在り得るのであるが、第二の意味の供給曲線上に於ては、右に前進することが在り得るばかりで、左に後退することは在り得ない、といふことである。



(第九圖)

例へば、第九圖のS線を以て第一の意味の供給曲線を現はすものとするれば、價格決定點は、需要多ければa點に定まるべく、需要少ければb點に定まるべしといふやうに、同じ曲線の上を右から左に動く、と考へることが出来る。何故といふに、此の場合に、需要多ければとか、需要少ければとか云ふのは、皆一定の時點に於ける可能性の提言であるから、同一の時點に於ける供給の可能性を圖示してSなる曲線が、前後を通じて役立つのである。然るに、もし其の曲線が第二の意味の供給曲線であるならば、その曲線の中には時の経過——從て之に伴ふ所の生産規模、生産技術等の變化——が含まれてゐるから、事情が全く相違して来る。例へば第十圖に於て、最初O₁だけの供給を爲せし際に、一單位の生



(第十圖)

曲線の上を、 a から b に、即ち左から右に、前進するだけであつて、それを逆に、右から左に後退することは無く、さう云ふ場合には、必ず前の曲線とは違つた S' といふ供給曲線を通る、といふことになるのである。それは前にも述べた如く、第二の意味の供給曲線は、歴史的の事實を現はしてゐるのだから、歴史が逆に回轉されぬ以上、價格決定點が同じ供給曲線の上を、右から左に、逆に後退することは、固より有り得べからざる事なのである。その關係に於て、この第二の意味の供給曲線は、供給の増加を示す場合には『前進曲線』(即ち第十圖の S 線の如く右に矢を向けた線)となり、供給の減少を示す場合には『後退曲線』(即ち第十圖の S' 線の如く左に矢を向けた線)となる、と言ひ得らるゝのである。

産費が a x であつたものが、其の後供給が O x' まで増加せらるゝに至つた爲め、一單位の生産費が b x' だけに減じたとするならば、其の供給の増加といふ結果の現はるゝに至りしまでの期間に於て、實は生産規模や生産技術やの變化があつたのであるから、其の事情の既に發生した後には供給額が再び以前の如く O x だけに減少することがあつたとしても、その場合の一單位の生産費は、元の如く a x ではなくて、 c x に止まると云ふが如きことが、起り得るのである。即ち價格決定點は S といふ供給

(ロ)次に、第一の意味の供給曲線は、既に述べたる如く、それ／＼の價格の下に於ける可能的供給 (potential supply) を現してゐるのだが、第二の意味の供給曲線は、現實的供給 (actual supply) の變化に伴ふ生産費の變動を現してゐるのである。だから曲線の形は假ひ同じであるにしても、前の場合には曲線そのものに供給が現れて居り、後の場合には、供給は *abscissa* (横底線——前より前の圖によればOX線) の上に現れてゐて、曲線そのものは實は生産費(從て供給價格)を現してゐるに過ぎぬのである。なほ言ひ換ふれば、前者は、價格の高低に應じて供給に多少の差あることを示せるものなれども、後者は、供給の多少に應じて生産費に——從て供給價格に——高底の差あることを示せるものである。故に前の場合には價格が前提され、後の場合には供給が前提される。現に、第一の意味の供給曲線(及び需要曲線)の説明の場合に掲げしフィシャアの數字表には、第一段に價格の表を置き、然る後その一々の價格の下に於て、需要せらるゝ貨物の分量と、供給せらるゝ貨物の分量とが、第二段と第三段とに於て、互に對比せしめてあるけれども、それと異り、第二の意味の供給曲線の説明の場合に掲げしチャプマンの數字表には、第一段に先づ貨物の分量を示す數字が置かれてあつて、然る後その一々の分量の下に、需要價格と供給價格とが、第二段と第三段とに於て、互に對比せしめてあるが、これなども偶然の差でなくて當然の差なのである。即ち曲線の外形は似てゐても、之を數字に現す時は、全く性質の違つた數字にな

つて仕舞ふのである。(本誌本號五二八頁及び五三七頁參照)

第二、曲線の外形の差異。私は第一の意味の供給曲線及び需要曲線の特徴を述ぶる際、需要曲線は一般に左より右に下がる曲線の形を取るけれども、供給曲線に至つては、それが左より右に下がる曲線の形を取ることは、絶対にあり得ない、と云ふことを述べた。しかるに第二の意味の供給曲線は、既に述べたる如く、生産費遞減(報酬遞増)の場合にのみ、右より左に下がる曲線の形を取るであつて、生産費遞増(報酬遞減)の場合には、左より右に下がる曲線の形を取り、生産費不變の場合には、OX線に平行する直線の形を取るのである。何故第一の意味の供給曲線は左より右に下がる曲線の形を取り得ないかと云へば、もしさう云ふ形を取れば、それは、一定の時、一定の市場に於て、貨物の價格が安ければ安きほど其の供給額は多く、之に反し、價格が高ければ高きほど其の供給額は少い、といふ事實を現はすことに爲るが、左様なことは考ふべからざることに屬するからである。然るに第二の意味の供給曲線になると、左より右に下がる曲線の形を取る場合が、寧ろ最も多い。それは何故かといふに、多くの貨物に在つては、之が供給を増加するにつれて、一單位當りの生産費は、次第に減少するを常とするからである。

第一の意味に於ける供給曲線(及び需要曲線)と、第二の意味に於ける供給曲線と、全く其の性

質を異にするものなることは、以上述ぶるが如くである。しからば、マアシャル、チャブマン等が、第二の意味の供給曲線と交差せしめつゝある需要曲線(第八圖参照)なるものは、——第一の意味の供給曲線と、第二の意味の供給曲線とが、互に其の性質を異にせるに準じて、——普通に第一の意味の供給曲線と交差せしめられつゝある需要曲線と、矢張り其の性質を異にするものであるかと云ふに、私の見る所によれば、さうでは無くて、矢張り同じ性質のものである。然るに、もしさうだとすれば、此の場合には、一定の性質を有する需要曲線が、それと違つた性質を有する供給曲線と、同じ圖面の上に組合せられつゝある譯になる。私は今、その事の是非を論ずる前に、一應その事自身を確めて置かうと思ふ。

マアシャル、チャブマン等が、第二の意味の供給曲線と交差せしめつゝある需要曲線が、普通第一の意味の供給曲線と交差せしめられつゝある需要曲線——從て第一の意味の供給曲線に準ずる性質を有する需要曲線——と同じものだと云ふことは、その曲線が、必ず左より右に下がる曲線の形を取ることに、限定されてゐるのを見て分る。(前に掲げしチャブマンの需要價格に關する數字表、及び之に就ての彼れの説明参照)¹⁴⁾それは、一定の時點に於て、貨物の需要が、如何に價格の相違するに従うて相違し得るか、を示す一の曲線である。それ故、それは如何なる貨物に就て云ふも、價格が高ければ高きほど需要は少く、價格が低ければ低きほど需要は多いのであつ

て、即ち其れを曲線に現せば、必ず左より右に下がる曲線の形を取るようになるのである。しかるに、吾々がもし、第二の意味の供給曲線が長期間に亘る供給の状態を現はしてゐるといふ事實に準じて、それと同じ趣に、長期間に亘る需要の状態を曲線に現さうとするならば、その曲線は必しも左より右に下がる曲線の形を取るとは限らない。何故といふに、一定の時點に於て言ふならば、價格が高ければ需要は少く、價格が低くければ需要は多い、に決つてゐるけれども、もし長期に亘る需要の變化を見るために、時を異にして、需要の状態を比較するならば、價格は高くなつてゐるに拘らず需要は増加してゐる場合もあり得れば、又それと反對に、價格は低くなつてゐるに拘らず需要は減少してゐる場合もあり得るので、その曲線は決して一定したものでは無い。

假に供給の場合と同じやうに、問題をば需要の増加し行く場合に限定しても、それには——矢張り供給の場合と同じやうに——三様の模型の場合が考へられる。第一は、價格の下落につれて需要の増加し居る場合で、それを曲線に現さば、恰も生産費遞減の場合に於ける供給曲線と同じやうに、左より右に下がる曲線の形を取る。第二は、價格は騰貴せしに拘らず需要の増加し居る場合で、それを曲線に現さば、恰も生産費遞増の場合に於ける供給曲線と同じやうに、左より右に上がる曲線の形を取る。第三は、價格に變化なきに拘らず需要の増加し居る場合で、それを曲線に現さば、恰も生産費不變の場合に於ける供給曲線と同じやうに、OX線に平行する直線の形

を取る。此の如く、第二の意味の供給曲線に準すべき需要曲線（以下便宜のため、之を第一の意味の需要曲線と謂ふ）は、種々の形を取り得るのであつて、その點に於て、かの第一の意味の供給曲線に準すべき需要曲線（以下之を、第二の意味の需要曲線と謂ふ）が、必ず左より右に下がる曲線の形を取るのと、大に趣を異にしてゐるのである。しかるにマアシャル、チャブマン等が第二の意味の供給曲線と交叉せしめつゝある需要曲線を以て、必ず左より右に下がる曲線の形を取るものと限定せるは、是れ明かに、その需要曲線が第一の意味のものに外ならざる證據である。

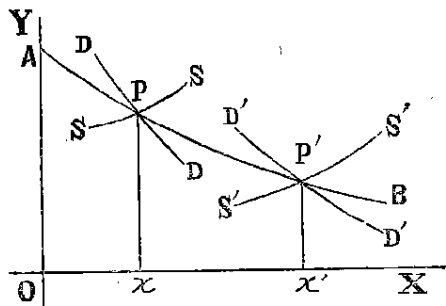
以上は單に曲線の形だけを捕へて其の性質を吟味したのであるが、更に之に關するマアシャルチャブマン等の説明を見れば、私の言ふ所の誤ならざることが確められる。例へば、前に掲げしチャブマンの、需要供給に關する數字表の中、第二段の限界的需要價格が、何故貨物の數量の増加につれて低下することにしてあるかと云へば、——その數量の増加に伴ふ需要價格の低下を曲線に現す時は、それは、先きに言ひしが如き、左より右に下がる曲線になつてくるのである——チャブマン自身の説明によると、それは『效用遞減の法則の故に』と言ふのである。ところが其の效用遞減の法則といふのは、一定の時、一定の人が一定の物に對して感ずる限界効用が、其の單位數の増加につれて、遞減するの事實を言ひ表はしたもののだから、チャブマンの謂ふ所の需

要價格の低下なるものが、一定の時刻に拘る問題だといふことは、甚だ明瞭である。即ち其れは特定の時、特定の市場に於ける市場價格の決定を論ずる場合に、問題とせらるゝ所の、需要側の事情と同じものなのであつて、聽て之を曲線に現はさば、私の謂ふ所の、第一の意味の需要曲線になる外はないのである。

しかるにマアシャル、チャプマン等が、此の如く第二の意味の供給曲線と第一の意味の需要曲線とを——即ち性質の違つた曲線と曲線とを——同一の圖面の上に交差せしめつゝあることは、一時の便宜としては兎も角、正確に言へば誤謬であつて、其等の曲線は同一面上に於て交叉し能はぬものであり、假に同一面上に交叉せしめて見ても、實は意味を成さぬものである、今その事を明かにするが爲めには、私は更に進んで、第二の意味の供給曲線（即ちマアシャル、チャプマン等が供給曲線と名けてゐるもの）は、實は同時に長期間に亘る需要曲線であると云ふこと、否な其れは供給曲線とか需要曲線とか云ふよりも、寧ろ價格曲線又は生産費曲線と稱するを適當とすと云ふことを、論述する必要に迫まれる。

第十一圖に於て、A B 線は、マアシャル等が供給曲線と謂へるもの（即ち私が假に第二の意味の供給曲線と名けたもの）であつて、それが左より右に下がる曲線の形を取つてゐるのは、所謂

(圖 一 十 第)



の第二の意味の供給曲線」と彼等の所謂需要曲線（それは私の謂ふ所の、第一の意味の需要曲線と同じもの）との交叉によつて、正常價格の決定點を定めんとするのである。しかるに私の考へる所によれば、D線又はD'線（第一の意味の需要曲線）と交叉する所のは、AB線（第二の意味の供給曲線）といふ一個の曲線ではない。もし此等の需要曲線と交叉するものを求むるのであれば、吾々は、此等の需要曲線（即ち第一の意味の需要曲線）に準ずる所の、第一の意味の供給曲線を描いて來なければならぬのであつて、即ち其れを圖に現はせば、D線に對しては之とP點に於て交叉する所のS線があり、D'線に對しても之とP'點に於て交叉する所のS'線があるのである。

生産費遞減が行はれてゐて、貨物の供給量の増加に伴ひ一單位の生産費が次第に減少してゐることを示す。（此の曲線には模型的ものが三様あることは、前に既に述べた。茲には其の三つの場合の中の一つを例に取つたまでのことである。）さうしてマアシャル等は、之と交叉する所のD線又はD'線等を以て需要曲線となし、かくて需要の狀態がD線の形を取る時は、價格はPのの高さに定まり、又需要の狀態がD'線の形を取る時は、價格はP'の高さに定まる、といふやうに、彼等の所謂供給曲線（それは私の謂ふ所

何故といふに、例へばD線は、或る時、點に於ける需要の可能性を示してゐるので、即ち其れが左より右に下がる曲線の形を取つてゐるのは、價格が高ければ需要は少かるべく、價格が低ければ需要は多かるべし、といふ事實を現はしてゐるのだが、吾々がもし之と同じ趣意により、同一の時點に於ける供給の可能性を圖に現さうとするならば、それは必ず左より右に上がる曲線の形を取るべき筈だからである。尤も之を、長期間に亘つて考ふるならば、それは早や第二の意味の供給曲線になるのであるから、供給の増加に伴ふ生産費の遞減、遞増、不變等の事情に應じて、その曲線は、已に第十一圖に示せる如く左より右に下がる曲線の形を取ることもあり、或は左より右に上がる曲線の形を取ることもあり、或はOX線に平行する直線の形を取ることもある。しかし其れは何れも長期間に亘る供給の變動である。もし之を一定の時點に限らば、——之を短期間について言ふも、緩き程度に於て全く同様であるが、——供給の増加は必ず價格の騰貴を必要とするのであるから、それを曲線(即ち第一の意味の供給曲線——第十一圖のS線又はS'線等に當る)に現はす時は、かの長期間に亘る供給曲線(即ち第二の意味の供給曲線——第十一圖ではAB線に當る)は、たとひ左より右に下がつてゐる場合でも、又OX線に平行してゐる場合でも、それは必ず左より右に上がる曲線の形を取り、又長期間に亘る供給曲線が既に同様の形を取つてゐる場合(生産費遞増の場合)には、それは之よりも甚しき程度に於て左より右に上がる曲線の形を取るの

である。

要するに、 AB 線（マアシャル等の謂ふ所の供給曲線）は、第一の意味の需要曲線（ D 線、 D' 線等）と第一の意味の供給曲線（ S 線、 S' 線等）との交叉により決定せらるゝ所の、其の時々の價格決定點（ P, P' 等）を連結することにより生ずる曲線であつて、それがデクザクの形を成さざるは、問題を正常價格の決定に限るが爲めである。だから、もし其れが供給曲線と謂へるならば、——一定の市場に於ける現實の需要額（actual demand）と現實の供給額（actual supply）とは必ず一致すべきであるから、——同時に、需要曲線とも謂ひ得らるゝのである。悉しく言へば、もし AB 線を以て、價格 P の時は供給が Ox であり、價格が P' の時は供給が Ox' である、等のことを現はして居る、と解釋することが出来るならば、それと同時に、その AB といふ同じ線を以て、價格 P の時は需要が Ox であり、價格が P' の時は需要が Ox' である、等のことを現はして居る、と解釋することも出来るのである。しかし本當は、此の場合「供給は（需要も）一の曲線によつて現はされてゐるのでは全く無くて、それは *abscissa*（横底線）に於ける長さ即ち（ Ox, Ox' 等）によつて現はされてゐるのである」¹⁵⁾。即ち AB といふ曲線（マアシャル等が供給曲線と謂へるもの）は、實は一の價格曲線なのである。かくて私は遂に、マアシャル等の謂ふ所の供給曲線なるものは一の價格曲線に過ぎない、といふ一の結論に達した譯である。

茲に價格曲線と謂ふは、前々よりの圖式に本づき、多くの時點に於ける價格決定點を連結することにより生ずる一の曲線であつて、それは市場價格の場合にありては、頗る不規則なる曲線の形を取るべきであるが、茲にマアシヤル等の問題としてゐる場合は、それが正常價格に限られてゐるがために、曲線の形はチクザクとならずに滑かになつてゐるのである。又その曲線は、市場價格には關係なく、たゞ正常價格にのみ關係あるものであるから、正確に言へば、それは價格曲線の一種たる正常價格曲線なのである。しかるに其の正常價格なるものは、何時でも貨物の生産費相當の點に定まるのだから、正常價格の場合に限り、價格曲線は同時に生産費曲線でもある。ところが、その生産費なるものは、畢竟供給側の事情に拘はることであるから、其の關係よりして、この生産費曲線をば單に供給側の事情を現はす曲線だといふことが在り得る。¹⁶⁾さうして既に『供給側の事情を現はす曲線』だと言つて仕舞へば、それは、市場價格の決定を論ずる際に用ひらるゝ所の、『供給側の事情を現はす曲線』(即ち私の謂ふ所の第一の意味の供給曲線)と、言葉の上に於て同じものゝやうに爲つて仕舞ふので、そこで此等二曲線の混同が起るのである。¹⁷⁾

私は以上のやうに考へてゐる。そこで次には、此の考を以て、最近に石川法學士が本誌に公にされた『正常需要供給の動的考察と時の要素』と題する論文を讀んで見たいと思ふ。

16) 例へば Taussig, Principles I, p. 172. を見よ

17) Ely は特に此の點を注意せり。Outlines, p. 174. 参照